

# 特別支援教育 1・2・3・5 学年 国語科学習指導案

指導者 佐藤 聡 幸

## I 単元名

「ひつような じょうほうを でんわできこう つたえよう 」(話すこと・聞くこと)

## II 単元の指導構想

### 1 単元について

本学級は、1年生1名、2年生1名、3年生1名、5年生2名の計5名で編成されている。

本学級に在籍する子どもたちの「話すこと・聞くこと」にかかわる実態について、担任及び子どもたちの学習にかかわる教職員、保護者による日常観察、本校特別支援教育学団の「行動特性チェックリスト」、「国語科指導系統表」、各種検査から、次のように捉えた。

子ども	「話すこと・聞くこと」にかかわる実態(日常観察)			
	話すことにかかわる実態	聞くことにかかわる実態	話し合いにかかわる実態	
A (1年)	特	教師に対して単語で要求をすることがある。 繰り返し話した単語ははっきりと話すことができる。 教師の話した言葉を繰り返すことで、短い文を話すことができる。 動画などで覚えた英語のような言葉を話す。 話すことよりも書くことを好む。	落ち着いているとき短く話すことと指示を聞くことができる。 語彙が少なく、聞いても分からないことが多い。 初めて聞くことや分からないと癩癩を起すことがある。	周りの発言を聞いている。 自分から話すことはない。
	交	友達の真似をして返事をすることができる。 友達の真似をして「はい、元気です。」と話すことができる。 廊下で、「おはようございます。」という声に対して「おはようございます」と返すことができる。 友だち同士での会話は少ない。	教師が話しているときは、動きはあるが、静かに座っている。 友達から話しかけられるとにこにこしている。 指示が分からないと大声で叫ぶことがある。	話し合いの経験がない。
	保	自分の思いを指さし単語で伝える。 外国の動画の声を真似して意味のない言葉を話す。 思いが伝わらず泣いたり暴れたりする。	語彙が少なく、聞いても分からないことが多い。 聞いたことが理解できないと癩癩を起すことがある。 短く話すことで、話分かることもある。	話し合いの経験がない。
B (2年)	特	メモや事前に考えを整理しなことも、時間をかければ質問に対する自分の考えを理由をつけて話すことができる。 はっきりとした明瞭な声で話すことができる。 楽しかったことや興味のあるものについて自分から進んで教師に話す。	興味のないことに集中して聞くことが苦手である。 動きながら聞く。 メモに時間がかかる。	興味のあることには、自分の意見を積極的に理由を付けて話すことができる。 友達の意見に対して理由を付けて反論することができる。
	交	親しい友達に質問をしたり、なかよく会話をしたりすることができる。 自分から教師に挨拶をすることができる。 活動の感想を短く話すことができる。	教師の話は独り言を話したり、動いたりしながら聞いている。 興味のあることには時々質問をする。 話した後に確かめると聞いていないことが多い。	多くの友達の前でも自分の考えを話すことができる。
	保	話に主語がなくなりにくい。 聞き手にとって分かりやすいという感覚で話していない。 質問の内容に合わない答えをすることが多々ある。	聞いたことをすぐに忘れてしまう。	自分の考えを押し通そうとする。 考えが通らなると怒ることがある。
C (3年)	特	自分の気持ちを3語文程度で話すことができる。 予め文を考えることで、感想や自分の考えを話すことができる。 発表は緊張して声が小さくなったりふらふら動きながら話したりする。	短い時間であれば、内容に注意して話を聞くことができる。 語彙が少なく、話の意味を理解していないことがある。	教師に促されて自分の考えを話すことができる。 友達が話している最中に反論をする。 自分の考えを独り言のように話す。
	交	自分から教師や友だちに話しかけることがほとんどない。 独り言のように自分の考えを話していることがある。 健康観察のように決まった返事は小さい声で話す。	手をいじりながら話を聞く。 短い時間であれば、友達の発表を聞いている。	自分の考えを独り言のように話す。 静かに話し合いを聞いている。
	保	自分の好きなこと(野球や盛岡のこと)をたくさん話す。 主語と述語が対応していない話し方をする。 同世代の友達との会話は、同じ学団の子としかない。	興味のあることは集中して聞き、ずっと覚えている。 興味のないことは聞いていない。	話し合いの経験があまりない。 意見を求めると分からないことが多い。
D (5年)	特	4語文程度の感想を話すことができる。 教師や学団の先輩に自分から話しかけることができる。 テレビの言葉を独り言で話す。 友達や教師に話しかけ、自分の要求を伝えることができる。 どんな・どうやってなど、抽象的なことを聞く質問に対して答えに困る。	語彙が少なく、話の内容を理解していないことがある。 関心のないことに注目して聞くことが苦手である。	積極的に話す。話し合いの内容や話の流れにそぐわないことが多くある。 意見を言った後は満足げである。
	交	褒められたとき嬉しそうなる表情をする。交流学級の友達に自分から話しかけることがない。 交流学級においても定型的な場合は、日直などの進行係を大きな声で行うことができる。	5年生向けの話の内容(言葉の意味など)を分かっているようにないようである。	積極的に手を挙げて話す。質問や議題の流れに合わないことが多い。
	保	相手の状況(話中・料理中など)を気にせずに何度も話しかける。 一度確認したことも何度も質問する。	家庭で話をする際に、分からない言葉を聞くことと聞こえなかったふりをする。	話し合いの経験が少なく。 自分の意見より他の意見を優先することが多い。
E (5年)	特	自分の考えや活動の感想を4語文程度で話すことができる。 教師に対して丁寧語で話すことができる。 自分の楽しかったことを時系列に沿って教師に話すことができる。	興味があること、必要感あることは注意して聞き、覚えておくことができる。 メモをとりながら聞くことができる。 注意をそぐものがあると話をきいていない。	興味のある議題では、時間いっぱい集中して自分の意見を話したり友達の意見に対して重ねて意見を話したりすることができる。 友達の発表の途中で自分の意見を話してしまう。
	交	友達から話しかけられると緊張せずにそれに答えることができる。 教師の質問に短い言葉で答えることができる。 困ったときに自分から質問をすることができる。	相手の話を聞いてその流れに合った質問や感想を話すことができる。	話し合いの中で自分の考えを話すことがない。 話し合い中は、手いじりをしながら静かにしている。
	保	言葉が荒いことがある。 敬語で話さない。 自分の要求をたくさん話すことができる。	話したのに聞いていないということが多くある。	話し合いの経験はあまりない。 自分の意見が通らなると癩癩を起す。

行動特性チェックリスト

領域		下位項目	A	B	C	D	E	具体内容
学びの姿勢	聴覚選択	2	1	1	2	3	1 物音（重要でない細部）などに注意が逸れてしまい、教師の支援により一時的に喚起できる。 2 物音（重要でない細部）などに注意が逸れてしまうが、教師の支援により喚起できる。 3 物音（重要でない細部）などに注意が逸れるが、課題への影響は少ない。 4 物音（重要でない細部）などに注意が逸れずに、課題を捉えることができる。	
	視覚選択	2	1	1	2	3	1 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れてしまい、教師の支援により一時的に喚起できる。 2 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れてしまうが、教師の支援により喚起できる。 3 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れるが、課題への影響は少ない。 4 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れずに、課題を捉えることができる。	
	聴覚的深さ	2	3	1	2	3	1 聞いたことをすぐに忘れてしまう。 2 聞いたことの一部は覚えているものの、重要情報の欠落や誤選択が見られる。 3 聞いたことを一時的に覚えていることができる。 4 聞いたことを一時的・長期的に覚えていることができる。	
	視覚的深さ	3	3	2	4	4	1 見たことをすぐに忘れてしまう。 2 見たことの一部は覚えているものの、重要情報の欠落や誤選択が見られる。 3 見たことを一時的に覚えていることができる。 4 見たことを一時的・長期的に覚えていることができる。	
	ペース	1	2	2	3	3	1 教師の支援の有無にかかわらず、せつちや過度に遅い取り組みができる。 2 教師の支援により、活動のペースを一時的に修正することができる。 3 教師の支援により、安定した活動のペースにすることができる。 4 常に安定したペースで取り組むことができる。	
	自力	1	2	1	3	3	1 活動への集中のために、教師の支援が常に必要である。 2 教師の支援によって、様々な活動に集中して取り組むことができる。 3 一時的に教師から離れて、様々な活動に集中して取り組むことができる。 4 自ら様々な活動に集中して取り組むことができる。	
	規則性	1	2	1	3	4	1 教師の支援を受けながら決まりきった状況への対応をすることができる。 2 友達とともに、決まりきった状況へ正確に対応することができる。 3 決まりきった状況へ誤りがあるものの対応することができる。 4 決まりきった状況へ正確に対応することができる。	
	困難場面への緊張	1	2	1	2	3	1 困難・葛藤場面で緊張し、行動に反映する。 2 困難・葛藤場面で緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 困難・葛藤場面で緊張するが、行動に反映しない。 4 困難・葛藤場面で緊張しない。	
	集団への緊張	1	3	1	2	3	1 集団内で緊張し、行動に反映する。 2 集団内で緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 集団内で緊張するが、行動に反映しない。 4 集団内で緊張しない。	
	場所への緊張	1	1	1	2	3	1 特定の場所や慣れない場所に緊張し、行動に反映する。 2 特定の場所や慣れない場所に緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 特定の場所や慣れない場所に緊張するが、行動に反映しない。 4 どのような場所でも緊張しない。	
目的意識	想起	1	3	2	3	4	1 体験（成功・失敗・懲罰）を思い出せない。 2 教師の支援により体験を振り返ることができるが、活動に生かすことができない。 3 教師の支援により体験を振り返ったり、活動に生かしたりすることができる。 4 自ら体験を生かすことができる。	
	学習目的	2	3	2	3	3	1 教師の支援を受けても、目的や楽しみを見出すことができない。 2 教師の支援により、活動中あるいは活動後の楽しみを見出すことができる。 3 教師の支援により、目的や楽しみを見出すことができる。 4 自ら目的や楽しみを見出すことができる。	
	生活	3	3	3	3	3	1 学習内容にかかわる生活体験やニーズがない。 2 学習内容にかかわる生活体験やニーズが以前にある。 3 学習内容にかかわる生活体験やニーズがある。 4 学習内容にかかわる生活体験やニーズがあり、自ら問題意識をもっている。	
意味付け・価値付け	生活への意味付け	1	3	3	2	3	1 教師の支援があっても、生活とのかかわりを意識することができない。 2 教師の支援により生活とのかかわりを意識し、それに応じた行動をすることができる。 3 自ら生活とのかかわりを意識することができるが、そぐわなかったり活動が伴わなかったりする。 4 自ら生活とのかかわりを意識し、それに応じた活動や用意をすることができる。	
	活動への意味付け	1	2	3	2	3	1 教師の支援による結果予測を理解することができない。 2 教師の支援による結果予測に応じて、活動することができる。 3 自ら結果を予測するが、そぐわなかったり活動が伴わなかったりする。 4 自ら結果を予測し、それに応じた活動や用意をすることができる。	
	活動への価値付け	1	2	2	2	2	1 教師の支援により、一つ一つの活動に取り組むことができる。 2 教師の支援により、次なる活動を念頭に置きながら、目の前の活動に取り組むことができる。 3 教師の支援により、複数の活動への価値を感じながら取り組むことができる。 4 自ら、複数の活動を価値付けて取り組むことができる。	
学習方法	問題対応	活動目的	1	2	2	2	3	1 教師の支援を受けても、目的を感じながら活動できない。 2 教師の支援により、目的を感じながら活動できる。 3 教師の支援により、目的を見つけて活動できる。 4 目的から活動を自ら見つけ、持続させながら課題に取り組むことができる。
		確認	2	2	2	2	3	1 しばしば不注意による間違いや失敗がある。 2 時折不注意によるまちがいや失敗がある。 3 不注意による間違いや失敗があるが、本質的なものに支障がない。 4 不注意による間違いや失敗がない。
		手がかりの拡散	2	2	2	2	4	1 教師の支援を受けても、別の方法に取り組むことができない。 2 教師の支援により、別の方法に取り組むことができる。 3 教師の支援により様々な方法を検討し、その中の一つに取り組むことができる。 4 自ら様々な方法を検討し、多様な方法に取り組むことができる。
		手がかりの収束	2	2	2	2	3	1 教師の支援により、よりよい手がかりを受け入れることができる。 2 教師の支援により2つの手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。 3 教師の支援により様々な手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。 4 自ら様々な手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。
		興味	3	3	2	4	3	1 興味・関心のあるものが見当たらない。 2 学習活動以外に有効な興味・関心がある。 3 学習活動に有効な興味・関心がある。 4 学習活動に有効な興味・関心があり、活用したいという意識がある。
	集団との関わり	感情の伝達・理解	2	3	3	3	3	1 文脈や態度を意識した行動（話すことを含む）をとることができない。 2 誇張した文脈や態度のいずれかから感情を理解し、行動（話すことを含む）をとることができる。 3 文脈や態度のいずれかから感情を理解し、行動（話すことを含む）をとることができる。 4 文脈や態度を予測し、行動（話すことを含む）をとることができる。
		協調性	3	4	3	3	4	1 一人での活動に固執する。 2 教師と一緒に活動する。 3 定型的あるいは、教師の支援により他者との活動をする。 4 他者の状況を考えて活動を共にし、場合によっては協力する。
		遊び	2	4	3	3	4	1 気に入った物のみを使って遊ぶが、固執したりなめたりし、奇異にみえる。 2 気に入った物のみで、使用目的に合わせて遊ぶ。 3 教師等から提示された物を使って遊ぶ。 4 自分から様々なものに働きかけて遊ぶ。
		ゲーム	2	3	3	2	3	1 教師の支援を受けて、ゲームに参加することができる。 2 教師の支援を受けてゲームに参加し、勝ちを喜ぶことができる。 3 教師の支援を受けて、ゲームの勝敗を意識して参加することができる。 4 ゲームの勝敗を意識して参加し、敗れでも価値を見出すことができる。
		賛辞	2	3	2	4	4	1 他者のよさを認めることができない。 2 教師の支援により、他者のよさに拍手をおくる。 3 周囲の状況をとらえて、他者のよさに拍手をおくる。 4 自ら拍手あるいは、賛辞をおくる。



- 小学校学習指導要領改訂の経緯及び基本方針を受け、国語で育成を目指す資質・能力は、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」とある。国語科で身に付ける言語能力は、全ての学習の基盤となり、生活においても必要不可欠な能力である。またこれらの力のうち、(話すこと・聞くこと)の力については、人間の多様性や様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことにつながる。例えば子どもたちは、どんな順序で話せば相手に伝わるか、相手はどんな考えをもって、自分は、それに対してどう思うのかといった見方・考え方を働かせて他者とかかわり、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりすることで、他者と円満な関係を築き、様々な困難場面で、周りの支援を受けながら、社会的自立していくことができる。以上のことから、自分たちが必要とする情報を他者から聞き出す学習をすることで、相手の立場に立って考えるとどんな話し方をするとよいか、必要な情報をいかに正確に聞きとり生かすかといった視点で物事を考える本教材は、子どもたちがこれまでの経験や推測を基に見方・考え方を働かせ、必要感をもって学習に取り組むことで、自己の資質・能力を高めていくために適した教材であると考える。
- 本領域の学習は、生活単元学習「校内合宿をしよう」の内容と関連している。課題を解決するために様々な要素があるため、学習する上で困難さを感じる領域でもある。そこで、先に述べた子どもたちの実態に応じて、個別の目標を設定し、子どもにあった学習材や学習形態を工夫することで、子ども自身が自己の学びの状況を捉えながら、段階的に学習を進められるようにしたい。また、子どもたちが、主体的に友達とかかわり合いながら学びを深めることができるよう、生活単元学習や実生活と結びつく学習課題の設定やかわりが必要不可欠な学習展開にしたい。以上のように、子どもたちの実態と「話すこと・聞くこと」の系統性を大切にしながら、単元を通して、実生活と結びつける振り返りを繰り返し行うことで、課題を自分事として捉え、連続的な学びへとつながっていくようにしたい。

## 2 復興教育（3つの教育的価値）との関連

- かかわる「⑨自分と地域社会」とのかかわり

相手の立場に立って話をしたり質問をして聞いたりすることで、相手意識をもって人と関わることを学んだり、困ったときに支えを求めることについて学んだりする。

## Ⅲ 単元の指導構想

### 1 本単元の目標

子ども	本単元にかかわる実態	本単元の目標		実生活とのつながり
		①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性		
A	教師に対して単語で要求をすることがある。 繰り返し話した単語ははっきりと話すことができる。 自分の思いを指さしや単語で伝える。 外国の動画の声を真似して意味のない言葉を話す。 落ち着いているとき短く話すことと指示を聞くことができる。 語彙が少なく、聞いても分からないことが多い。	①	明瞭な発音で、短い文を話すことができる。	各教科・領域・実生活で、周りの人の話し方を聞き、模倣することで、伝わりやすい発音で話すことができる。
		②	どんなことに気を付けると正しい発音になるか考えることができる。	
		③	相手に分かりやすい話し方ができるように、発音に気を付けて話そうとする。	
B	メモや事前に考えを整理しなくても、時間をかければ質問に対する自分の考えを理由をつけて話すことができる。 活動の感想を短く話すことができる。 話に主語がなくなりづらい。 話した後には確かめると聞いていないことが多い。 興味のないことに集中して聞くことが苦手である。	①	相手が聞き取りやすい話の速さや声の大きさがあることが分かる。	学習や見学の際、友達や教師、施設の方の話最後まで聞き、必要な情報を得たり、指示に沿った行動をしたりすることができる。
		②	自分が必要な情報が何かを考え、注目する部分を考えながら質問の答えを聞くことができる。	
		③	聞くことが自分にとって有益であることに気付き、主体的に相手の話を聞こうとする。	
C	自分の気持ちを3語文程度で話すことができる。 予め文を考えることで、感想や自分の考えを話すことができる。 発表は緊張して声小さくなったりふらふらしながら話したりする。 自分から教師や友だちに話しかけることがほとんどない。 独り言のように自分の考えを話していることがある。 健康観察のように決まった返事は小さい声で話す。 短い時間であれば、内容に注意して話を聞くことができる。	①	相手が聞き取りやすい話の速さや声の大きさがあることが分かる。	学習や見学の際、友達や教師、施設の方の話最後まで聞き、必要な情報を得たり、指示に沿った行動をしたりすることができる。
		②	自分が必要な情報が何かを考え、注目する部分を考えながら質問の答えを聞くことができる。	
		③	聞くことが自分にとって有益であることに気付き、主体的に相手の話を聞こうとする。	
D	友達や教師に話しかけ、自分の要求を伝えることができる。 どんな・どうやってなど、抽象的なことを聞く質問に対して答えに困る。 交流学級においても典型的な場合は、日直などの進行係を大きな声で行うことができる。 関心のないことに注目して聞くことが苦手である。	①	相手が聞き取りやすい話の速さや声の大きさがあることが分かる。	相手との会話に興味をもち、必要な情報を聞き出すために友達に話しかけたり、電話で教師に聞いたりすることができる。
		②	相手の話の内容をおおまかにとらえて会話をするすることができる。	
		③	自分が必要な情報を得るために、電話を使い、主体性をもって施設の方と会話をしようとする。	
E	自分の考えや活動の感想を4語文程度で話すことができる。 教師に対して丁寧な話し方をすることができる。 自分の楽しかったことを時系列に沿って教師に話すことができる。 興味があること、必要感あることは注意して聞き、覚えておくことができる。	①	必要な情報を聞くために、相手に伝わりやすい話し方の構成があることが分かる。	自分が聞きたいことを聞くために、自分の都合や目的を明確にし、相手意識をもって話すことができる。
		②	自分が目的のためにどんな情報を引き出そうとしているかを明確にし、相手の反応を予想しながら聞くことができる。	
		③	相手の立場に立って話したり、物事を考えたりしようとする。	

### 2 学びのつながり

子どもたちはこれまでに、その子どもの実態に応じた内容や話し方で自分の体験を話したり、友達の話聞き、興味のあることを質問したりする学習をしてきた。その際、最後まで話を聞いてもらえると嬉しいことや、話を聞いてもらうためにはよい話し方があること、話を聞くことは自分にとって有益であることなどを感覚的に掴んでいる。

本単元では、「よい話し方や聞き方があるようだ」といった抽象的な子どもたちの見方・考え方をより具体的にし、話す順序や話す声の大きさ・速さ、聞く際にどの言葉に注目するのかといった見方・考え方を働かせて学習を展開していく。

子どもたちは、今後、本単元で身に付けた資質・能力を、分からないことを質問する際や、自分が話したいことを他者に伝える際に活用し、自己の学習や生活をよりよいものにしていくと考える。

3 単元の指導計画（6時間）本時は第5時

時間	各時間の学習内容				評価規準 及び【評価方法】				
	A	B	D	C	E				
1	生活単元学習「校内合宿」を行うために必要な情報を施設の方に電話で聞く。 ※手立て2-① 校内合宿と関連させ、単元を貫く課題意識を醸成する。 初めての電話でのインタビューの経験に基づき、電話をするために必要な方や準備を考え、学習計画を立てる。 <b>自分だったらどんな話し方で話してもらったら分かりやすいだろうか。</b> 電話をして相手に伝えるために、話し方の工夫が必要であることを気付く【発言(思・判・表)】								今回は、どんな順で何を話すかが決まっていなかったからうまくいかなかった。 電話で情報を聞くために、自分たちが何を聞きたいのかをはっきりさせたり、相手から聞かれることを予測したりすることが必要であることに気付く【発言(思・判・表)】
2	正しい発音で単語を話す。 一つ一つの音を発音する練習をすると、単語をはっきりと言えそうだ。 明瞭な発音で単語を話すことができる。【発表(知・技)】 ※手立て2-③ 振り返りの際に、明瞭な発音により相手に伝わったという喜びを実感させ、もっと発音の学習をしたいという意欲につなげる。 教師や友達と話したことを復唱する。 <b>最後まではっきり話し聞き取りやすい。</b> 自分の名前の話し方を覚え、語尾まで明瞭に話すことができる。【発表(知・技)】 ※手立て2-③ 前時と同様	相手に伝わりやすい話し方の工夫について考え、話す。 ※手立て2-② 目的達成のために役割演技をすることで協働的な学びの必要感を生み出す。 考えた工夫を基に、電話での会話の例文を使って役割演技をする。 <b>話すスピードや声の大きさに気を付けると聞きやすい。</b> 相手との距離や相手の年齢などによる適切な速さや声の大きさが分かる。【発表(思・判・表)】							大事なことは強くゆっくり話すことで質問内容が相手に分かりやすい。 大事なことを特に意識してゆっくり強く話すよといことが分かる【発表(思・判・表)】
3	必要な情報を聞き出すための話し方の構成を考える。 電話で話すことを書き出し、話す順序を考える。 両親は電話の時に自分のことを名乗ったり、お礼を言ったりしていた。 電話の掛ける際は自分の名前を名乗ることが分かる。【発言(知・技)】 ※手立て2-③ 前時と同様	電話での会話の役割演技をし、必要な聞き方の工夫について考える。 ※手立て2-② 目的達成のために役割演技をすることで協働的な学びの必要感を生み出す。 インタビューの音声を聞き、質問の答えを聞き取る。 <b>集中して最後まで聞くことが大切だ。メモを取って聞くことで、忘れない。</b> 必要な情報を聞くための聞き方の工夫が分かる。【発言(思・判・表)】							教師と共に、電話での会話の役割演技をする。 質問をするときに、相手から質問をされることもありそう 目的のためにどんな情報を引き出そうとしているかを明確にして聞くことが大切であると分かる。【発言(思・判・表)】
4	必要な情報を聞き出すための話し方の構成を考える。 電話で話すことを書き出し、話す順序を考える。 両親や先生が電話をするときはどんな流れで電話をしていただろうか。 要件を伝える⇒質問をする⇒お礼をするという構成ができる。【発言(思・判・表)】 ※手立て2-③ 前時と同様	インタビューの音声を聞き、質問の答えを聞き取る。 <b>集中して最後まで聞くことが大切だ。メモを取って聞くことで、忘れない。</b> 必要な情報を聞くための聞き方の工夫が分かる。【発言(思・判・表)】							電話で話すことを書き出し、話す順序を考える。 質問の文を考える。 両親や先生が電話をするときはどんな流れで電話をしていただろうか。 要件を伝える⇒質問をする⇒お礼をするという構成を考えることができる。【発言(思・判・表)】
5 本時	施設に電話をかけ、必要な情報を聞く。 ※手立て2-② 目的達成のための意見交流をすることで協働的な学びの必要感を生み出す。 教師や友達の後唱をして、短い文を話す。 口を大きく開けて、ゆっくり話すことと伝わりやすくと、みんなが話していた。 評価規準は本時の指導計画に記載 ※手立て2-③ 前時と同様	ビデオや音声を聞き、電話での会話の仕方について考える。 <b>自分だけでなく相手が話したことを最後まで聞くことで、会話がまいくいそうだ。</b> 評価規準は本時の指導計画に記載 ※手立て2-③ 同左						電話で質問をする際の聞き方について考える。 自分だったら、この質問に対してどんなことを考えるだろうか。 評価規準は本時の指導計画に記載 ※手立て2-③ 同左	
6	聞き取った情報を学団の友達に報告をする。 聴き取った情報を書いた、短い文を話す。 口を大きく開けて、ゆっくり話し話すことと伝わりやすさを意識して、短い文を話すことができる。 【発言(知・技)】	他の学級の情報をメモを取りながら聞く。 <b>必要な情報が何かを理解してから、関係する言葉に注目すると正しく情報を聞きとることができた。</b> 他の学級が調べた内容を正しく聞き取り、記録することが出来る。【学習シート(思・判・表)】							他の学級で自分と同じ役割をした友達とどんなことに気を付けて質問をしたのか、交流する。 自分の気を付けた部分と共通するところがあるだろうか。 相手の話を予想しながら聞くこと大切であることが分かる。 【発言(知・技)】

IV 本時の指導計画  
1 目標及び評価規準

A	B	D	C	E
明瞭な発音で短い文を話すことができる。	自分達が必要な情報が何かを考え、注目の部分を考えながら質問の答えを聞くことができる。	相手の話の内容をおおまかにとらえて会話をすることができる。	自分の話の内容を最後まで聞き取ることができ、自分の話をすることができ。	自分が目的のためにどんな情報を引き出そうとしているかを明確にし、相手の反応を予想しながら聞く。
電話の相手に、明瞭な発音で自分の名前を話すことができる。 【知識・技能】	電話の相手への質問の答えを、短くメモし、正確な情報を記録することができる。【思考・判断・表現】	電話の相手の話を最後まで聞き取ることができ、自分の話をすることができ。	自分の話をすることができ。	自分の聞きたい情報を得るために、どんな質問をすればよいかを考え、電話によって情報を聞き出すことができる。【思考・判断・表現】

2 展開

学習内容	A	B	D	C	E
1 前時の学習の確認 (3分) ・ 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習課題と学習内容の把握 (4分) おふろやさんに でんわを して ひつような じょうほうを ききとろう。	学習の目的とこれまでの学習を写真と学習計画で振り返る。 ・ 校内合宿で行く温泉施設に電話をする目的で学習をしたことや初めの電話では、困ったことがあったため、解決のために学習をしてきたことを想起できるようにする。 ・ 本時の学習課題と学習内容を把握する。	・ 学習活動 ○指導上の留意点 ※研究に関わる手立て <b>期待する子どももの姿</b>	・ 学習の目的とこれまでの学習を写真と学習計画で振り返る。 ・ 校内合宿で行く温泉施設に電話をする目的で学習をしたことや初めの電話では、困ったことがあったため、解決のために学習をしてきたことを想起できるようにする。 ・ 本時の学習課題と学習内容を把握する。	・ 学習活動 ○指導上の留意点 ※研究に関わる手立て <b>期待する子どももの姿</b>	・ 学習の目的とこれまでの学習を写真と学習計画で振り返る。 ・ 校内合宿で行く温泉施設に電話をする目的で学習をしたことや初めの電話では、困ったことがあったため、解決のために学習をしてきたことを想起できるようにする。 ・ 本時の学習課題と学習内容を把握する。
3 学習内容の理解 (12分)	・ 発音練習をする。 ○ 電話で話す内容を教師の模倣をして音読し、明瞭な発音で話すことができるようにする。 ・ E児と電話で話す役割演技をする。 ○ どの言葉が明瞭であったかを評価して、はつきり話すことの喜びを感じられるようにする。	・ 電話で聞いたことを記録する。 ○ ビデオや音声教材を使用し、イヤホンをして取り組ませること で、刺激を減らし、自分の学習に集中できるようにする。 <b>必要な情報に注目して聞き、短い言葉でメモをとる姿</b>	・ 電話のやり取りを音読する。 ○ ビデオや音声教材を使用し、電話でのやり取りを役割演技すること、自分の質問に対する相手の答えを聞いてから次の話題に入り、会話を続けるようにする。 <b>相手の話の内容を聞き、次の自分の話を始めてよいか考える姿</b>	・ 必要な情報を聴きだすための質問を考える。 ○ 質問に対して、教師が答える役をして見せ、聞かれる人の立場での疑問や考えを伝えることで、相手の立場に立つて、質問内 <b>これまでの生活体験を基に、相手からどんな質問を聞き返されるかがありそうかを考える姿</b>	・ 必要な情報を聴きだすための質問を考える。 ○ 質問に対して、教師が答える役をして見せ、聞かれる人の立場での疑問や考えを伝えることで、相手の立場に立つて、質問内 <b>これまでの生活体験を基に、相手からどんな質問を聞き返されるかがありそうかを考える姿</b>
4 学習内容の交流 (7分)	・ 実際の電話と同じように教師を相手に自分たちで役割をする。 ○ 実際の電話の場面で自分の学習をどのように生かすかを確かめたり、実際の電話の答えについて記録する。 ○ 聞き取ったことを記録できていることを称賛し、次の活動への不安や緊張を軽減できるようにしたり、意欲を高めた。 <b>大きく口を開けて話す姿</b>	・ 電話で聞いたことを記録する。 ○ ビデオや音声教材を使用し、イヤホンをして取り組ませること で、刺激を減らし、自分の学習に集中できるようにする。 <b>必要な情報に注目して聞き、短い言葉でメモをとる姿</b>	・ 電話のやり取りを音読する。 ○ ビデオや音声教材を使用し、電話でのやり取りを役割演技すること、自分の質問に対する相手の答えを聞いてから次の話題に入り、会話を続けるようにする。 <b>相手の話の内容を聞き、次の自分の話を始めてよいか考える姿</b>	・ 必要な情報を聴きだすための質問を考える。 ○ 質問に対して、教師が答える役をして見せ、聞かれる人の立場での疑問や考えを伝えることで、相手の立場に立つて、質問内 <b>これまでの生活体験を基に、相手からどんな質問を聞き返されるかがありそうかを考える姿</b>	・ 必要な情報を聴きだすための質問を考える。 ○ 質問に対して、教師が答える役をして見せ、聞かれる人の立場での疑問や考えを伝えることで、相手の立場に立つて、質問内 <b>これまでの生活体験を基に、相手からどんな質問を聞き返されるかがありそうかを考える姿</b>
5 電話をかける (10分)	・ 実際に施設へ電話をかけ、必要な情報を聞き出す。 ※ 手立て2-②協働的な学びの必要感を生む学習展開 ○ あえて子どもたちに任せ、自分たちでできることと難しかったところが明確になるようにする。 ・ 電話で要件を伝える。 <b>大きく口を開けて話す姿</b>	・ 電話で聞いたことを記録する。 ○ ビデオや音声教材を使用し、イヤホンをして取り組ませること で、刺激を減らし、自分の学習に集中できるようにする。 <b>必要な情報に注目して聞き、短い言葉でメモをとる姿</b>	・ 電話のやり取りを音読する。 ○ ビデオや音声教材を使用し、電話でのやり取りを役割演技すること、自分の質問に対する相手の答えを聞いてから次の話題に入り、会話を続けるようにする。 <b>相手の話の内容を聞き、次の自分の話を始めてよいか考える姿</b>	・ 必要な情報を聴きだすための質問を考える。 ○ 質問に対して、教師が答える役をして見せ、聞かれる人の立場での疑問や考えを伝えることで、相手の立場に立つて、質問内 <b>これまでの生活体験を基に、相手からどんな質問を聞き返されるかがありそうかを考える姿</b>	・ 必要な情報を聴きだすための質問を考える。 ○ 質問に対して、教師が答える役をして見せ、聞かれる人の立場での疑問や考えを伝えることで、相手の立場に立つて、質問内 <b>これまでの生活体験を基に、相手からどんな質問を聞き返されるかがありそうかを考える姿</b>
6 振り返りを行う (9分)	・ 全体で学習の振り返りを行う。 ※ 手立て2-①次時の学習や実生活への必要感へとつなげる振り返りがんばったこと、がんばったこと、がんばった友達、できるようになったこと、うまくいかなかったこと、うまくいかなかったこと、より深い振り返りとなるようにする。 習をどのように生かすことができるか」と切り返して発問すること、より深い振り返りとなるようにする。	・ 電話で聞いたことを記録する。 ○ ビデオや音声教材を使用し、イヤホンをして取り組ませること で、刺激を減らし、自分の学習に集中できるようにする。 <b>必要な情報に注目して聞き、短い言葉でメモをとる姿</b>	・ 電話のやり取りを音読する。 ○ ビデオや音声教材を使用し、電話でのやり取りを役割演技すること、自分の質問に対する相手の答えを聞いてから次の話題に入り、会話を続けるようにする。 <b>相手の話の内容を聞き、次の自分の話を始めてよいか考える姿</b>	・ 必要な情報を聴きだすための質問を考える。 ○ 質問に対して、教師が答える役をして見せ、聞かれる人の立場での疑問や考えを伝えることで、相手の立場に立つて、質問内 <b>これまでの生活体験を基に、相手からどんな質問を聞き返されるかがありそうかを考える姿</b>	・ 必要な情報を聴きだすための質問を考える。 ○ 質問に対して、教師が答える役をして見せ、聞かれる人の立場での疑問や考えを伝えることで、相手の立場に立つて、質問内 <b>これまでの生活体験を基に、相手からどんな質問を聞き返されるかがありそうかを考える姿</b>